

JNSA ワーキンググループ紹介

セキュリティ啓発ワーキンググループ

マイクロソフト株式会社
セキュリティ啓発WGリーダー
古川 勝也

セキュリティ啓発WGは、昨年のCD-ROM作成WGの活動をさらに強化した形で、今年の4月より活動を開始しました。全国各地でセキュリティ関連の啓発活動を実施し、JNSAの全国的な認知度の向上とセキュリティに対する理解の向上を目的として活動を予定しており、本年度は、経済産業省の委託により「インターネット安全教室」と題したセミナーを全国10ヶ所で開催いたします。今回の対象は、一般の家庭を対象としており、インターネット利用時のメリットとセキュリティ面での留意点を題材にしています。これらの活用を通じて安全なインターネットの利用が促進されることを切に願っています。

■セキュリティ啓発WGについて

全国の家で急速にブロードバンド環境が浸透し常時接続環境や家庭内での無線LAN環境が一般的になりつつある今日、ウイルス感染や詐欺行為、プライバシー侵害など情報犯罪の被害にあう危険性がますます高くなってきています。いかに技術が進歩しても、ひとりひとりの意識の向上、モラルの徹底がなければ、情報犯罪を防ぐことはできません。こうした状況をふまえ、セキュリティ啓発WGでは、家庭や学校からインターネットにアクセスする人々を対象に、どうすればインターネットを安全快適に使うことができるか、被害にあったときにはどうすればいいかなど、情報セキュリティに関する基礎知識を学習できるセミナー「インターネット安全教室」を開催することにいたしました。この「インターネット安全教室」は、経済産業省の委託により実施するもので、各地の学校・自治体・団体・新聞社・商工会議所などの協力を得て、2003年10月～11月にかけて、全国10カ所で開催する予定です。

■「インターネット安全教室」参加対象者の検討と全体像について

「インターネット安全教室」では、今回のセミナーの対象を、「家庭や学校でパソコンを使う人」としました。生徒や教職員の方々、老若男女を問わず幅広いインターネットの利用者が対象となります。

インターネットを利用した情報の収集や、ショッピング、オークション、チャットといったコミュニケーションを、ネットワークインフラやテクノロジーの進化により、非常に快適に行える環境が一般の家庭においても利用することができるようになりました。その反面、インターネット上のセキュリティ問題に対する理解や、対策についてはまだまだ認知されていない現状があります。

そこで、今回は全国でのセミナーを展開し、インターネットを利用する上での最低限のセキュリティ対策の認知を高めることにいたしました。

全体のトーンとしては、非IT関連の方々も対象としているので、簡単な表現を行うこと、映像や画像を利用して直感的にイメージさせることを配慮して作製することにしました。そこで、実際のWGメンバーの体験や、周囲の動向を踏まえた、身近に発生しうる内容を具体的な例としてとりあげることにしました。また、メッセージの1つとして、インターネットの危険性だけでなく、インターネットの利便性についても強調しています。インターネットを利用することにより、生活が豊かに楽しくなる



というメリットについても等しく認知してもらうことが目的だからです。また、より理解度を高めるために、前回職場向けに作成したものと同様に、15分程度の映像を家庭向けに作成し教材として利用する予定で、副教材として参加者にCD-ROMの形式で配布を予定しています。セミナーの基本的な構成は、全体の時間として120分を予定しており、今回作成した家庭向け映像の上映、内容の解説、実機を利用した体験学習、パネルディスカッションの4つの要素で構成されます。

■家庭向け映像コンテンツの選定

WGメンバーによるブレインストーミングにより、非常に多くのセキュリティ上の留意点が挙げられました。そして、作成にあたっての前提として、1)インターネットを快適に利用するために必要なマナーや一般常識を含めて理解をしてもらう、2)今現在、実際に発生している問題点をとりあげ対応策を盛り込むこと、の2点を盛り込み、一般家庭の日常にあてはめた場合のインターネット利用の中に潜むセキュリティ上の留意点を洗い出し取捨選択を行い以下の6項目に絞りました。

Part1 危険なメール

電子メールはコミュニケーション手段として、非常に便利なツールとして広く利用されていますが、留意すべき点として、メールに添付されてくるウイルスの脅威や、金銭の払い込みを指示するような詐欺メールなどがあります。

Part2 個人情報の漏洩

Web上では、資料の送付や、プレゼント、懸賞への応募といったサイトで、氏名や住所などの個人情報の入力が必要となる場面があります。個人情報を入力するにあたり他の用途で利用されないような注意が必要となります。

Part3 しのびよる詐欺行為

インターネットを介した商取引やオークションといったやり取りが一般化しています。取引先が信頼できる相手なのか、入力してよい情報の判断についての注意が必要となります。

Part4 掲示板・チャットのマナー

ネット上で複数の人々と意見を交わしたり、情報のやり取りをおこなうことのできる掲示板やチャットは有用な情報を入手したり、新たなコミュニティの形成など非常に有用な反面、不確実な情報やコミュニケーションミスによるトラブルも発生する場合がありますので注意が必要です。

Part5 「盗聴」される無線LAN

配線が不要なため、家庭内での利用が急速に進む無線LANの環境ですが、設定を誤ると情報が外部に漏れてしまうことがあるので注意が必要です。

Part6 ホームページの落とし穴

情報を発信するのに有効なのがホームページの立ち上げですが、記載すべきでない情報が含まれていないか、著作権に対しての配慮がなされているかといった確認も必要になります。



CD-ROM撮影風景

■今後の予定

実際のセミナー実施は10月以降となり、現在実施に向けての作業が進んでいます。この記事が掲載される頃には、開催場所等の詳細についても確定していると思われるので、JNSAのサイトでスケジュールをご確認のうえ、皆様もぜひ本イベントへの参加をスケジュールしていただければ幸いです。

<http://www.jnsa.org/caravan.html>